

第5回みやぎ観光振興会議 気仙沼・本吉圏域会議

開催結果概要

委員からの主な意見

- 今後も当分の間続くと考えられる新型コロナウイルス感染症の影響を十分に考慮し、外出自粛を含めた新しい生活スタイルにも対応した観光のあり方を考えることが必要。
- これまでとは少し違った視点で変化しようとする動きを捉えた活動を民間と行政がタイアップして進めることが必要。
- 人口減少に伴う旅行需要の減少を想定し、地域経済効果が大きい宿泊観光客をいかに増加させるか、具体的な数値目標を掲げて取り組むことが必要。
- 新しい視点やキーワードを目的化せず、手段と据えて取り組むことが必要。
- 「宮城の観光産業の目指す将来像」の一つ理念として、「都市と自然豊かな地方の融合」を入れてはどうか。
- 「視点・キーワード」に「震災復興と伝承」を入れてほしい。
- 持続可能な観光を目指すに当たっては、地域の特性や観光資源にマッチするSDGsの視点を意識した取組が必要。
- 第4期みやぎ観光戦略プラン（改定版）に掲げられている令和3年の目標値について、その想定も含めて精査が必要ではないか。
- インバウンドについては、誘客ターゲットとする国やエリアをしっかりと意識した上で検討する必要がある。また、インバウンドがまったく見込めない場合も想定しておく必要があるのではないか。
- 人口減少によって国内観光客数も少なくなるので、圏域を何度も訪れてくれるリピーターやファンをつくることが必要。
- 地方で課題となっている二次交通問題の解消とタクシーやバスの利用促進のため、観光エリアを周遊する際に使えるクーポン券の発行など、二次交通事業者への支援を検討してほしい。

- インバウンドの取組には広域的な連携が不可欠となる。広域的な取組に際し、民間の力では限界があるので、県が先頭に立って進めてほしい。
- 各市町村の観光地としての強み・弱みを補い合うことで広域的な取組につながり、相乗効果も図れることから、市町村間の関係性の構築が必要。